

## 令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	真岡市役所総務部デジタル戦略課			代表者名	仁平 映夫
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	デジタル戦略課	連絡先電話番号	0285-83-8394
担当者役職	主査	担当者氏名	池澤 さより	連絡先E-mail	
住所	321-4395 栃木県真岡市荒町				

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

#### 1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修(単独)	事業名(予定)	データ利活用・EBPMの手法取得支援
概要	データ利活用・EBPMの手法取得支援		
支援を求める分野	オープンデータ EBPM		

### 2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和7年2月4日	講演(実地)	10時00分	16時00分	120
				活動時間(分)	240
2-2. 派遣場所	会場名	真岡市役所	最寄駅	真岡駅	
	所在地	栃木県真岡市荒町5191番地	最寄駅からの交通手段	徒歩15分・タクシー5分	

### 3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	大木 一浩
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	今回の支援を通じて、職員がデータ利活用やDXの重要性を認識し、具体的な課題意識を持つきっかけを得られたことは、大きな成果であると考えます。特に、幹部職員向け研修に続き、DX推進員・協力員・DXアドバイザーを対象とした研修を実施したことで、データ利活用の意義が庁内に広く浸透し始めています。 また、研修後には「職員だけが閲覧できるオープンデータのような仕組みがあるとよい」「収集データの共有ルールを整備すべき」といった具体的な意見が挙がるなど、データ活用に対する意識の変化が見られました。研修の目的であった「職員の意識向上や動機付け」が達成されただけでなく、今後のDX推進に向けた新たな課題の洗い出しにもつながりました。
アドバイザーへの要望事項	データ利活用の実践につなげるために、他自治体の先行事例や、すぐに実践可能な活用例の紹介、庁内のデータ共有・活用にに向けたルール整備のための助言等をお願いできればと考えています。

### 4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	48人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	48	0	0	0

#### 4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	令和8年度から本格的にデータ利活用およびEBPMを推進を検討するにあたり、庁内全体での理解と実践の広がりが必要な課題となっており、実務レベルでデータ利活用を行っている部署はほとんどないのが現状です。そこで、まずは幹部職員向けに「自治体DXにおけるデータ利活用」研修を実施し、データ利活用への理解促進などを行いました。今後は、DX推進員や協力員、自主的にDXに取り組むDXアドバイザーを対象とした研修を実施し、データ利活用の重要性や有効性を深く理解してもらうことが求められます。これにより、データに基づく政策立案の基盤を構築し、より効果的な自治体運営を目指します。
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	データ利活用の推進によって住民一人ひとりに効果的な施策を講じられる可能性があることを職員が理解することを目指します。また、研修を受講した職員が、自身の所属部署において活用可能なデータが存在するかを確認し、自らの担当業務におけるデータ利活用の可能性を積極的に探る姿勢を醸成するとともに、所属部署全体のデータ利活用をけん引する役割を担えるようになることを期待します。これにより、職員がデータを政策立案や業務改善に活用する意識を高め、実際の業務におけるデータ利活用の推進を加速させる基盤を構築します。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	研修では、国のDX方針や現状、データ活用・オープンデータの重要性について講義を実施いただきました。対象は、本市DXを各所属部署で推進するDX推進員・協力員、およびDXアドバイザーです。講義は「自治体DXの推進意義とBPR・データ活用」をテーマに行われました。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	支援を受けたことで、参加者は自身の業務や他の業務において、研修で学んだ内容を市民サービスへ還元できる可能性を見出せるようになりました。また、データ活用をはじめ、DX全体への意識を高めるきっかけとなりました。 研修の意見として、以下のような気づきが挙がりました。 ・「職員のみが閲覧できるオープンデータのような仕組みがあるといい」 ・「他課の情報を共有する際にハードルがある」 ・「収集したデータを庁内で共有するためのルールを整備すべき」 これらの意見は、講義を受けたことで生まれた具体的な課題意識であり、研修の成果の一つといえます。支援を通じてこのような気づきを引き出したことは、大きな成果であると考えます。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない現時点ではありません。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	参加者の意見の中には、以下のような課題も挙げられました。 ・「DXや業務改善を進めたいが、通常業務が忙しく、業務の棚卸を行う余裕がない」 ・「業務のほとんどが個人情報を扱うため、自分にはあまり関わりがないと感じる」 今回の全3回の支援は、職員の意識向上や動機付けを目的とした研修であったため、推進体制や支援体制の具体的な構築には至っていません。今後、これらの課題を踏まえ、本格的な推進体制の整備を進めていく必要があります。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 研修およびアンケート内容は2月5日(3回目の支援)と同様のため、2日分のアンケート結果を集約し、次回の報告書に分析結果を記載します。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する データ活用やEBPMの自走を前提に、庁内事例創出に向けて調査研究を行います。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	データを基に「本当に住民に必要な施策」を立案し、地域特性や住民個々のニーズに応じた施策を的確に届けられる自治体を目指します。そのために、データ活用を通じて課題を分析し、効果的かつ効果的な施策を展開します。最終的には、住民が実感できる形で福祉やサービスの向上を図り、信頼される自治体としての役割を果たします。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

**なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください**

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

